

2. 水稲新品種‘岡山68号’の育成（技術）			
[要約] 岡山県中部に適する、強稈、多収、良質、極良食味で、酒造適性にも優れた、中生品種‘岡山68号’を交雑育種法によって育成したので、品種登録を申請する。			
研究室名	作物研究室	連絡先	0869-55-0275

[背景・ねらい]

岡山県の奨励品種である日本晴は、栽培しやすいが、食味に問題がある。また、中生新千本は品質が劣る。そこで、これらの欠点を改良し、酒米にも適する強稈、多収で良質な極良食味品種の育成が望まれている。

[成果の概要・特徴]

1. ‘岡山68号’は、平成2年に‘ヒノヒカリ’を母、‘初星’を父として交配し、集団育種法で育成した。平成9年から奨励品種決定調査及び現地試験に供試し、生産力と現地適応性を検討してきた（表1）。
2. 出穂期、成熟期は日本晴より2日程度遅い中生種であった。
3. 稈長は、日本晴と同程度で、耐倒伏性も同程度に強かった。
4. 穂数は、日本晴と同程度で、草型は偏穂重型に属した。
5. 穂発芽性は難で、日本晴よりやや穂発芽しにくかった。
6. 耐病性は、いもち病、白葉枯病とも、日本晴よりやや弱かった。
7. 収量性は、日本晴よりやや高く安定していた。
8. 玄米は、日本晴並みの大きさで、外観品質は日本晴より良かった。
9. 食味は、コシヒカリと同等の極良食味で、日本晴より勝った。
10. 醸造適性は、日本晴と同程度で醸造しやすく淡麗な味となった（表2）。

以上の結果から、‘岡山68号’は有望と考えられるので、品種登録を申請する。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及地帯は、岡山県中部から北部にかけての標高200m以下の地域で、対象品種は日本晴、中生新千本、ヤマビコとする。
2. 倒伏には日本晴と同程度に強いが、過度の多肥栽培では、いもち病が発生しやすく、品質や食味が低下するので、施肥量は日本晴並みとする。
3. 移植期が早く、高温条件で登熟すると品質が低下しやすいので、6月上旬～中旬に移植し、早植えは避ける。
4. 白葉枯病に弱いので、常発地での栽培は避ける。

[具体的データ]

表1 岡山68号の特性一覧

調査地	岡山農総センター農業試験場		農業試験場北部支場	
調査年次	平成(9~13年)		平成(9~13年)	
品種名	岡山68号	日本晴	岡山68号	日本晴
早晚性	中生の早	早生の晩	中生の早	早生の晩
草型	偏穂重型	中間型	偏穂重型	中間型
出穂期(月・日)	8.20	8.18	8.17	8.16
成熟期(月・日)	9.29	9.26	9.24	9.24
稈長(cm)	81	82	86	87
穂長(cm)	18.8	19.5	19.3	20.1
穂数(本/m ²)	309	310	335	340
脱粒性	難	難	難	難
耐倒伏性	やや強	やや強	やや強	やや強
穂発芽性	難	やや難	難	やや難
耐病性	葉いもち	やや弱	やや弱	中
	穂いもち	中	中	中
耐病性	白葉枯病	やや弱	やや弱	中
	縞葉枯病	弱	弱	弱
玄米重(kg/a)	52.6	50.0	59.0	58.2
収量比率(%)	105	100	101	100
玄米千粒重(g)	23.4	23.8	24.6	24.2
玄米品質	上の中	中の上	上の中	中の上
食味	上の中	中の上	上の中	中の上

表2 岡山68号の醸造適性^{a)}

品種名	吸水性(%)		蒸米吸水率(%)	消化性		粗蛋白含有率(%)		カリウム含有率(ppm)
	20分	120分		Brix度(%)	F-N(ml) ^{b)}	玄米	白米	
岡山68号	23.8	29.3	38.8	9.3	2.1	7.5	5.9	458
日本晴	23.6	29.0	39.0	9.3	2.0	7.3	5.8	446

a) 岡山県工業技術センターで平成13年に酒造用原料米全国統一分析法により実施

b) フォルモール態窒素の量

[その他]

試験研究課題・事業名：交雑育種法による良質強稈多収品種の育成
 水稻奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：平成2~13年度

関連情報等：平成10年度試験研究主要成果：水稻有望系統 岡山67号'、岡山68号'の育成